

予報期間 6月25日から7月1日まで

## 1. 予報の根拠と補足等

- ・今予報期間日本付近は、オホーツク海がリッジ、5820m付近のトラフが概ね120E~130E付近にあって逆位相の西南西の流れ。日々の気圧場も基本的にこの形で大きな変化はない。また、トラフの内側では、ショートトラフないし正渦度極大域が短い周期で東北東進する。
- ・前線は5820mの流れの南縁付近に対応し、東・西日本の太平洋沿岸を北上・南下し、低気圧はショートトラフに対応して、前線上もしくは前線の北側に発生して東進する。前線の予想は、大筋で安定しているが、低気圧の予想はスケールが小さいためモデルやイニシャル毎に異なり、予想は安定していない。
- ・予報は、比較的イニシャル変わりの小さいENSを基本とする。FEFE19のLスタンプは、単独モデルを参考とした。

●27日：T2105の位置等は最新の台風予報参照。前線は東・西日本太平洋沿岸まで北上し、別の前線が東シナ海から西日本に伸びる。オホーツク海高気圧は北海道付近を覆う。東・西日本は前線の影響で雨の降る所が多い。北日本は、前線に近い東北では雨や曇りで、オホーツク海高気圧に覆われる北海道では晴れる所がある。

●28日：本州沿岸の前線は東シナ海からのびてきた前線と一体となり北上し、東北太平洋側から東・西日本太平洋側沿いに延びる。前線上の東シナ海で低気圧が発生して九州の西に進む。また、日本海に低気圧が発生して北日本に接近する。北~西日本は、前線や低気圧の影響で雨の降る所が多い。北海道も湿った空気の影響を受けやすくなり、雲が広がって、雨の降る所がある。

●29日：日本海の低気圧は北日本を通過して太平洋側に抜けた後前線上の低気圧に位相を移し三陸沖に進む。九州の西にあった低気圧は不明瞭となって東日本太平洋側に進む。また、別の低気圧が日本海に発生する。北・東日本は、前線や低気圧の影響で雨の降る所が多い。西日本は前線が南下するため、日本海側から雨のやむところがあるが、太平洋側では引き続き雨が降る。

●30日：日本海の低気圧は北日本に進み不明瞭となる。前線は、三陸沖の低気圧の東進に伴い北日本の沿岸からは離れるが、東日本では沿岸近くに停滞する。西日本では九州の南海上付近。北日本は低気圧の影響で曇りや雨で、東日本は、太平洋側は前線の影響で雨の降る所が多いが日本海側は概ね曇り。西日本は、太平洋沿岸で雨の残る所がある他は曇りで、日本海側では晴れ間が出る所もある。

●7月1日：サブHが西に勢力を強める傾向で、前線は西日本で北上する。北日本はオホーツク海高気圧に覆われる。オホーツク海高気圧に覆われる北日本は、北海道は晴れる所もあるが、東北は湿った空気の影響を受け易いため雲が広がりやすい。東・西日本は前線の影響で雨の降る所が多い。

●沖縄・奄美：今予報期間は、期間の終わりにサブHが西に勢力を強める傾向がみられるが、7/1でも明瞭なサブH圏内となって、前線や湿った空気の影響を受けにくくなるような場にはならない。期間を通して前線や湿った空気の影響を受けやすい状態が続くため、曇りや雨の降る日が多い。

## 2. 防災事項

- ・小笠原諸島は、T2105の進路等によっては、26日から27日頃にかけて大しけのおそれがある。
- ・西日本と東日本は太平洋側を中心に、前線の活動の程度等によっては、27日から28日にかけて大雨となるおそれがある。

## 3. 明後日予報(3時40分発表の短期予報解説資料も参照)

- ・300hPaで-39℃以下の寒気を伴うトラフが西日本~北日本を通過する。また、500hPaでは、沿海州付近にリッジが進み、リッジ後面の中国東北区では寒冷渦がゆっくり東進し、寒冷渦縁辺のトラフが夜には西日本へ進む。
- ・地上は、台風第5号が小笠原諸島の西海上を北~北北東へ進む。また、梅雨前線が南西諸島から台風の北側を通過して日本の東へのびる。一方、日本のはるか東の高気圧が北日本へ張り出す。
- ・小笠原諸島は、台風の影響で暴風雨となり、海上は大しけとなるおそれがある。また、南西諸島や伊豆諸島は梅雨前線の影響で雨が降る見込み。西日本~東日本は曇りの所が多く、大気の状態が不安定となるため雨で雷を伴う所がある。北日本は晴れる所もあるが、雨や雷雨の所がある見込み。
- ・なお、台風の進路はモデル間で多少差があるが、小笠原及び伊豆諸島を除き予報への影響は小さい見込み。